

SDGsをビジネス戦略に どのように組み込むことができるか ー消費者との協創力ー

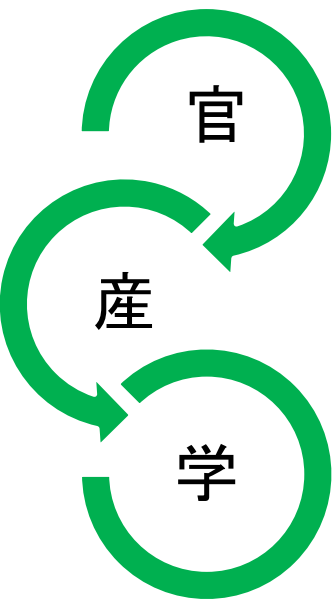
千葉商科大学基盤教育機構教授
ESG/SDGsコンサルタント

笹谷 秀光

Sasaya Hidemitsu

※ SDGsマークはすべて国連広報センターによる

笹谷秀光 プロフィール



農林水産省
外務省
環境省

総合飲料企業

日本「経営倫理学会理事
グローバルビジネス
学会理事
千葉商科大学
基盤教育機構教授



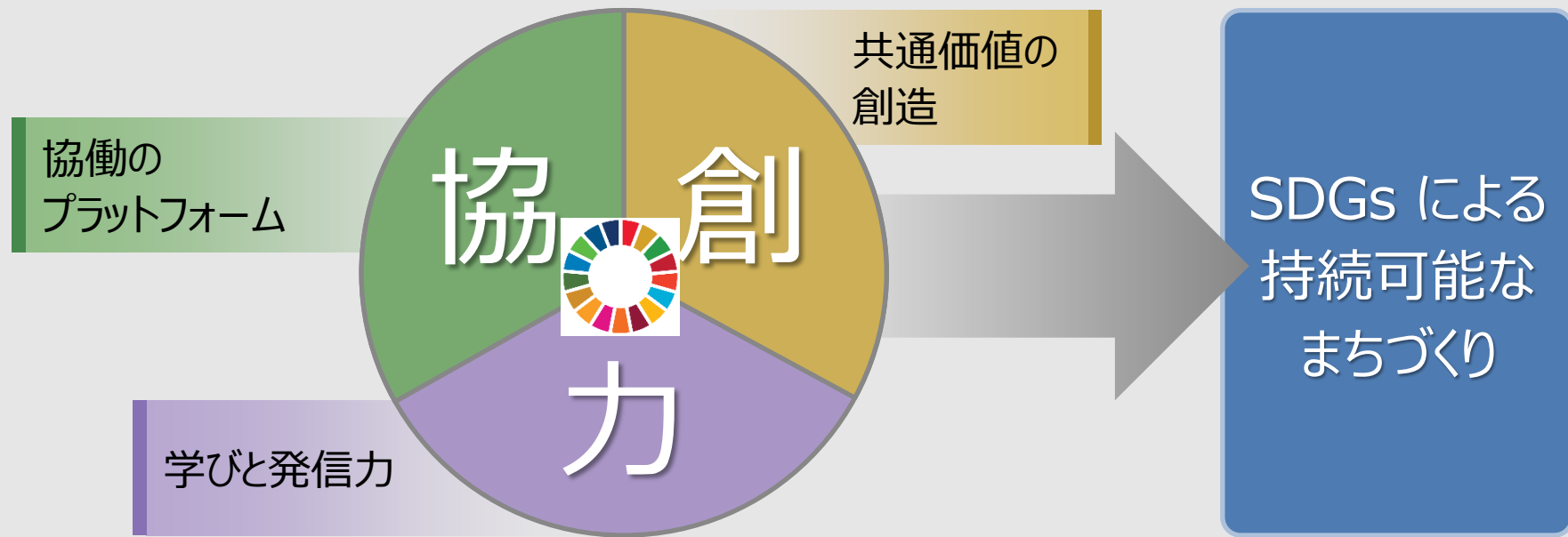
集大成



協創力の時代

SDGsで協創力

連携・協働で新たな価値を生み出す力



「グレート・リセット(大変革)」 (Great Reset) Xの時代 CX DX HX D&IX **SX**

SDGs

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)



「我々の世界を**変革**する

： 持続可能な開発のための2030アジェンダ」

Transforming our world

： the 2030 Agenda for Sustainable Development

「我々の世界を変革する ：持続可能な開発のための2030アジェンダ」

(赤字は筆者)

「2030アジェンダ」前文

すべての国及びすべてのステークホルダーは、協同的なパートナーシップの下、この計画を実行する。我々は、人類を貧困の恐怖及び欠乏の専制から解放し、地球を癒やし安全にすることを決意している。我々は、世界を持続的かつ強靱(レジリエント)な道筋に移行させるために緊急に必要な、**大胆かつ変革的な手段**をとることに決意している。我々はこの共同の旅路に乗り出すにあたり、**誰一人取り残さない**ことを誓う。

今日我々が発表する17の持続可能な開発のための目標(SDGs)と、169のターゲットは、この新しく普遍的なアジェンダの規模と野心を示している。これらの目標とターゲットは、ミレニアム開発目標(MDGs)を基にして、ミレニアム開発目標が達成できなかったものを全うすることを目指すものである。これらは、**すべての人々の人権を実現**し、ジェンダー平等とすべての女性と女児の能力強化を達成することを目指す。これらの目標及びターゲットは、統合され不可分のものであり、**持続可能な開発の三側面、すなわち経済、社会及び環境の三側面を調和**させるものである。

我々のビジョン

7. (目指すべき世界像)これらの目標とターゲットにおいて、我々は最高に野心的かつ変革的なビジョンを設定している。我々は、すべての人生が栄える、貧困、飢餓、病気及び 欠乏から自由な世界を思い描く。我々は、恐怖と暴力から自由な世界を思い描く。すべての人が読み書きできる世界。すべてのレベルにおいて質の高い教育、保健医療及び社会保護に公平かつ普遍的にアクセスできる世界。**身体的、精神的、社会的福祉(well-being)が保障される世界**。安全な飲料水と衛生に関する人権を再確認し、衛生状態が改善している世界。十分に、安全で、購入可能、また、栄養のある食料がある世界。住居が安全、強靱(レジリエント) かつ持続可能である世界。そして安価な、信頼でき、持続可能なエネルギーに誰もがアクセスできる世界。

8. (目指すべき世界像)我々は、人権、人の尊厳、法の支配、正義、平等及び差別のない ことに対して普遍的な尊重がなされる世界を思い描く。人種、民族及び文化的多様性に対して尊重がなされる世界。人間の潜在力を完全に実現し、繁栄を共有することに資することができる平等な機会が与えられる世界。子供たちに投資し、すべての子供が暴力及び搾取から解放される世界。すべての女性と女兒が完全なジェンダー平等を享受し、その能力強化を阻む法的、社会的、経済的な障害が取り除かれる世界。そして、最も脆弱な人々のニーズが満たされる、**公正で、衡平で、寛容で、開かれており、社会的に包摂的な世界(just, equitable, tolerant, open and socially inclusive world)**。

9. (目指すべき世界像)我々は、すべての国が持続的で、包摂的で、**持続可能な経済成長と 働きがいのある人間らしい仕事を享受できる(sustainable economic growth and decent work for all)**世界を思い描く。消費と生産パターン、そして空気、土地、河川、湖、帯水層、海洋といったすべての天然資源の利用が持続可能である世界。民主主義、グッド・ガバナンス、法の支配、そしてまたそれらを可能にする国内・国際環境が、持続的で包摂的な経済成長、社会開発、環境保護及び貧困・飢餓撲滅を含めた、持続可能な開発にとってきわめて重要である世界。技術開発とその応用が気候変動に配慮しており、生物多様性を尊重し、強靱(レジリエント)なものである世界。人類が自然と調和し、野生動植物その他の種が保護される世界。

SDGsの5原則



共通言語 SDGsの捉え方 - 5つのP



図版はすべて国連広報センター
17目標のあてはめは筆者

消費者志向経営とSDGs

SDGs12 を軸に自分事化



SDGs図版はすべて国際連合広報局
当てはめは筆者



どうする日本？



ゆい
結

17 パートナースhipで
目標を達成しよう

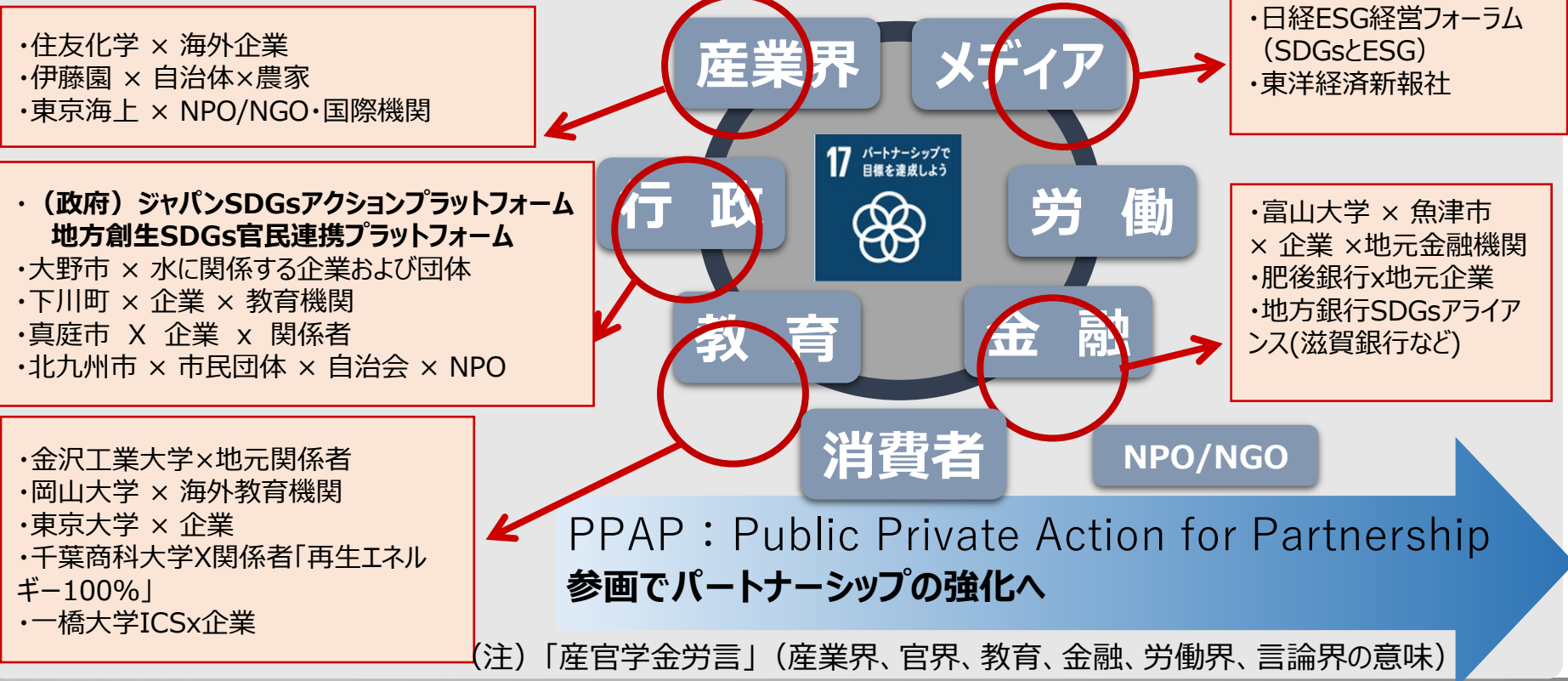


写真提供：岐阜県白川村



連携力：SDGsのプラットフォーム(共通基盤)「産官学金労言」

< 企業参画の連携・協働の事例 >



企業と社会の関係（最近の流れ）

2006~

E
S
G
投資



Philanthropy的なCSRの時代

2010 ISO26000 CSR : Corporate Social Responsibility

本業CSR : 社会対応力

2011 CSV : Creating Shared Value

共通価値の創造

経済価値

同時実現

社会価値



2015 SDGs : Sustainable Development Goals

持続可能性の共通言語





SDGs経営の両面（チャンスとリスク）

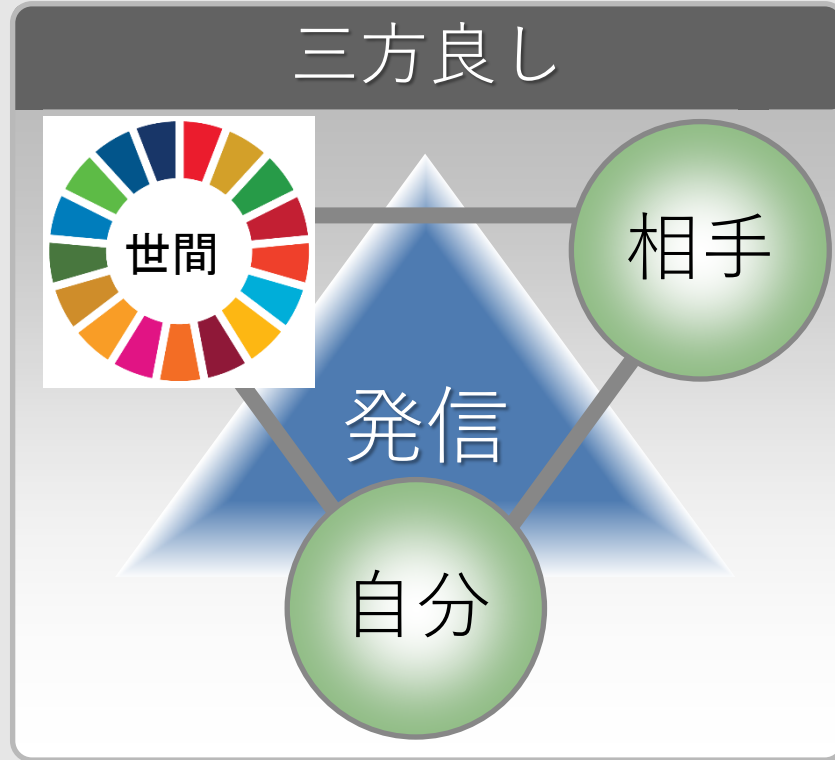
企業SDGs CSV（Creating Shared Value）共通価値の創造

本業でSDGsの両面



どうする日本企業？

発信型三方良しのSDGs化



陰徳善事

発信型
(開示型)
三方よし

SDGs図版は国際連合広報局

SDGsの主流化



EXPO for SDGs

自治SDGs

SDGs未来都制度

124自治体

公益社団法人2025年
日本国際博覧会協会
HPより

2020年度 大阪府・大阪市

2025年大阪・関西万博がめざすもの

✓ 持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献

✓ 日本の国家戦略Society5.0の実現

EXPO for SDGs

国連が掲げる「SDGs（持続可能な開発目標）」達成の目標年である2030年まで残り5年となる2025年は、
実現に向けた取り組みを加速するのに極めて重要な年です。

2025年に開催される大阪・関西万博は、SDGsを2030年までに達成するためのプラットフォームになります。



<https://www.expo2025.or.jp/overview/purpose/>

SDGs経営の規定演技から自由演技へ

マトリックスづくり



SDGs 169のターゲット



一通りの当てはめ



SDGsウォッシュ（ごまかし）を
チェック



規定演技



重点を決め直す



差別化



自由演技

令和2年度 消費者志向経営優良事例表彰 選考結果

【内閣府特命担当大臣表彰 1件】



事業者名 (法人番号)	選考委員会において評価された主な取組
ライオン株式会社 (1010601016863)	長期にわたり、主力事業の「口腔衛生」を通して、乳幼児から高齢者まで幅広く、「健康習慣づくり」を働きかけ、事業成長とも連動している。また、IoT（※）の技術を利用し、歯ブラシにアタッチメントを付け、正しい歯磨きを子供の生活に根付かせる取組も評価。 (※) Internet of Things の略。モノに通信機能を搭載して、インターネットに連携させる技術

【消費者庁長官表彰 6件】



<総合枠 1件>

事業者名 (法人番号)	選考委員会において評価された主な取組
日清食品ホールディングス株式会社 (7120001057574)	主力商品の即席カップ麺の環境配慮型容器で社会課題に取り組んでいる。国民食とも言える商品で取り組む意義は大きく、消費者の行動変容につながるインパクトがある。また、環境負荷を減らすための植物代替肉対応の取組も評価。

SDGs経営支援ツール:規定演技から自由演技へ 笹谷マトリックス(簡素版)

ESG/ISO26000/SDGsマトリックス																			
ESG	ISO26000の7つの中核主題	政策内容(例)	SDGs17目標																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
G	組織統治	コーポレートガバナンス																●	●
S	人権	人権の尊重関連政策	●									●						●	
	労働慣行	労働関連政策					●			●									
	公正な労働慣行	取引関連規制の順守								●				●				●	
	消費者課題	消費者保護対策												●				●	
	コミュニティ	地域政策		●	●	●							●						●
E	環境	環境政策関連						●						●	●	●	●		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

マトリックス最新事例(笹谷監修):モスフードサービス

モスグループの取り組みとSDGsとの関連

モスグループでは、SDGsと関連するさまざまな商品・サービスの提供やサステナビリティの取り組みを行っています。これらをさらに推進するため、この度ESG重要テーマごとにもな目標項目を整理し、マテリアリティ(重要課題)を抽出するとともに、モスグループの取り組みとSDGsの17の目標と169のターゲットに照らして検証しました。

●:おもに関連するSDGs目標 ○:関連するSDGs目標

ESG	7つの中核主題	ESG重要テーマ	モスグループのおもな目標項目	マテリアリティ (重要課題)	SDGsの17目標との関連性																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
G	組織統治	コーポレートガバナンス	企業統治																		
			内部統制																		
			サステナビリティ経営の推進(社内推進)																		
		リスクマネジメント	グループ全体のリスクマネジメント																		
			データセキュリティとプライバシーの保護																		
	公正な事業慣行	コンプライアンス	BCP管理																		
			理念体系、行動規範の管理と啓発																		
			取引に関する法令の遵守																		
		サプライチェーンマネジメント	CSR協議の推進																		
			産地支援とモスファーム事業の推進																		
S	労働慣行	人権	人権の尊重(啓発、ハラスメント教育)																		
			差別・不当な扱いへの対応																		
			福利厚生の実施																		
		従業員の健康・安全	業務時間外の定正・休憩取得の推進																		
			健康経営																		
	消費者問題	人権育成	人材獲得と定職防止																		
			人材育成、能力開発、キャリア形成、コミュニケーションの強化																		
			次世代FCオーナー育成																		
		ダイバーシティ	メンバーの多様性の確保、女性活躍推進																		
			ダイバーシティの推進																		
E	消費者問題	健康関係(健康と栄養性)	健康に寄与する食品の提供																		
			食品情報の適切な表示と開示																		
			商品・サービスの価値向上																		
		製品の求めやすさ	利便性向上のための店舗インフラ整備																		
			公正なマーケティングと広告																		
	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	コミュニティと産業育成	多様なニーズに合わせた店舗展開																		
			地域に寄り添った店舗展開																		
			地域の物産品を活用した新商品の開発																		
		コミュニティと環境・文化	モスの食育プログラムの推進																		
			エコマーク(飲食店)認定を活用した環境対応																		
E	環境	気候変動・大気汚染の防止	温室効果ガスの削減削減																		
			温室効果ガスの削減削減																		
			本社及びチェーン全体の省エネ対策の推進																		
		廃棄物とリサイクル	環境配慮型商品包装などの開発																		
			食品リサイクルの推進																		
	環境	生物多様性の保全	生物多様性の保全																		
			水質保全																		
			水質保全																		
		環境	環境																		
			環境																		

※消費者課題関連の枠は筆者

マトリックス最新事例(笹谷監修):SOMPOホールディングス

新中期経営計画 経営基盤

SOMPOが取り組む社会課題とSDGs

このマトリクスでは、ISO26000のフレームワークを用いてProcess1で洗い出された当社を取り巻く社会課題とESG-ISO26000の中間主題それぞれとの関係性を整理するとともに、当社グループが商品・サービスの提供などを通じて貢献しているSDGsを169のターゲットで示しています。また、重要度に基づきマテリアリティ候補の絞り込みを行ったProcess2の結果、当

社グループが事業を通じて優先的に取り組む社会課題を特定しています。これらの社会課題を、Process3として、当社の戦略に応じて整理・統合し体系化したものが、マテリアリティ(SOMPOのパーパス実現に向けた経営上の重点課題)です。

Process 1 取り巻く社会課題の洗い出し		Process 2 優先的に取り組む社会課題の特定										Process 3 7つのマテリアリティとして 体系化 (経営上の重点課題)					
ESG 区分	ESG20000 区分の中間主題	SOMPOに取り組む社会課題										7つのマテリアリティとして 体系化 (経営上の重点課題)					
G	組織能力	ガバナンスの高度化											●16.7	あらゆるリスクに対する 備えの提供			
		ESRM構築											●16.5				
		サイバーセキュリティの強化															
	公正な事業展開	コンプライアンスの強化															
		顧客満足											●16.5				
		株主還元											●16.5				
	人権	パルサーチェーンにおける人権の確保											●17.17		事故や災害を未然に防ぎ、 レジリエントな社会に貢献		
		人権尊重・人権リスク	△1.3	●2.4	●4.4	△5.4							●16.1			●17.16	☆
		労働者の権利の尊重		●3.3													☆
	労働関係	働き方改革による従業員エンゲージメント向上			△3.4	●4.4	△5.4									☆	
S		イノベーションを促せる人材の育成・活用			△4.4	△5.4								☆			
		ダイバーシティ&インクルージョンの推進	△1.4	△3.4	●4.4	●5.5								☆			
		健康経営の推進		●2.4									△17.16	☆			
コミュニティ への貢献および コミュニティの 発展	入付住民(賃貸専用・リゾレント専用)				●4.4								☆				
	地域活性化に向けた地域貢献活動												●17.16	☆			
	文化・芸術の振興					△4.7							●17.16	☆			
高齢者・若年層 への貢献	金融知識・あらゆる人々への保険の普及	●1.4	●2.3	●3.3										☆			
	自然環境にシニア世代社会への貢献	●1.5												☆			
	安心・安全な次世代モビリティ社会への貢献	●1.3	●2.4											☆			
消費者課題	消費者の権利の尊重	●1.3	●2.4											☆			
	消費者・行政機関に開いた商品・サービスの提供													☆			
	消費者教育(啓発・支援等)	●1.5	●2.7	△6.6										☆			
E	環境	お客さまサービスの提供向上			△3.6									☆	持続可能な高齢社会への貢献		
		フレイルへの対策				△3.6								☆			
		スマート社会への貢献			●2.4								●16.5	☆			
	消費者課題	健康寿命の延伸	△1.4	●2.4	△4.7									☆	未来社会を支える 人材集団の実現		
		消費者・行政機関に開いた商品・サービスの提供												☆			
		消費者教育(啓発・支援等)	●1.5	●2.7	△6.6									☆			
	環境	サステナブル・ファイナンスの推進(国・自治体向け)		△3.9										☆			
		サステナブル・ファイナンスの推進(企業向け)												☆			
		持続可能な経済活動への貢献	●1.5	●2.4	△3.9	△4.7	△6.6	●7.2						☆			
	環境	グリーン社会への貢献	●1.5	●2.4	△3.9	△4.7	△6.6	●7.2						☆	信託創造に向けた パートナーシップの プラットフォーム構築		
		気候変動への対策												☆			
		自然環境保全への貢献												☆			

※1 当社グループの活動と関係の強いSDGsターゲットを「●」、関連のあるターゲットを「△」で表記しています。
※2 マテリアリティは、当社グループの事業の進展や社会課題の変化に応じて継続的に見直しを行います。
※3 重要度に基づき、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

※1 当社グループの取組みと関係の強いSDGsターゲットを「●」、関連のあるターゲットを「△」で表記しています。
当社グループの課題解決型事業の進展や社会課題の変化に応じて継続的に見直しを行います。
※2 本マトリクスは、笹谷秀光氏の監修のもと整理しています。
※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

https://www.sompo-hd.com/-/media/hd/files/doc/pdf/disclosure/hd/2021/hd_disc2021.pdf?la=ja-JP

※消費者課題関連
の枠は筆者

今後の課題：ブランドデザイン

ブランドイメージ
の「よりどころ」
(無形資産活用
とワンボイス化)

社会・環境
(リスク)

経済価値
(チャンス)

「共感」を呼ぶ
コミュニケーション
ツール



THE GLOBAL GOALS
For Sustainable Development

グローバル・シナジー

企業・自治
体のブランド
をデザインし
、企業価値
を高める

持続可能性をめぐるタイムライン

2015年は、ESG元年／2018年は、SDGs 実装元年

「パリ協定」

E



「コーポレート
ガバナンスコード」

G

2021

東京五輪・パラリンピック

2025

2025年日本万国博覧会の大阪招致構想

2030

世界が合意した持続可能な開発目標の達成

(SDGsのロゴは国連広報センター)

SDGsは世界の共通言語

SDGsはビジネスパーソンの新常識

SDGsをどう使いこなすか

SDGsネイティブの時代

プロフィール 笹谷 秀光 (ささや ひでみつ) Hidemitsu Sasaya

千葉商科大学・基盤教育機構教授、ESG/SDGsコンサルタント、博士(政策研究)

東京大学法学部卒業。1977年農林省入省。2005年環境省大臣官房審議官、2006年農林水産省大臣官房審議官、2007年関東森林管理局長を経て、2008年退官。同年伊藤園入社、取締役、常務執行役員を経て2019年退職。現在、千葉商科大学教授

(主な兼職)日本経営倫理学会理事、グローバルビジネス学会理事、特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム理事、宮崎県小林市「こばやしPR大使」、文部科学省青少年の体験活動推進企業表彰審査委員(平成26年度より)、未来まちづくりフォーラム2019実行委員長、通訳案内士資格保有(仏語・英語)

著書 「CSR新時代の競争戦略-ISO26000活用術」(日本評論社・2013年)「協創力が稼ぐ時代—ビジネス思考の日本創生・地方創生」(ウイズワークス社・2015年) 環境新聞ブックレットシリーズ14「経営に生かすSDGs講座」(環境新聞社・2018年)「Q&A SDGs経営」(日本経済新聞出版・2019年)、「3ステップで学ぶ自治体SDGs」(ぎょうせい・2020)。



▶笹谷秀光の公式サイト「発信型三方よし」

<https://csrsdg.com/>



THANK YOU